



## 第98期 中間報告書

平成21年4月1日～平成21年9月30日

参天製薬株式会社 証券コード 4536



## コーポレートプロフィール

参天製薬は、眼科とリウマチ／骨・関節疾患領域に特化した独自性ある医薬品企業として、人々の目とからだの健康維持・増進に貢献しています。売上高の約80%を占める医療用眼科薬では、あらゆる眼科疾患に対する優れた医薬品の創製と医療現場のニーズに即した情報提供に取り組み、国内No.1の地位を獲得しています。すでに日米欧の3極で臨床開発・販売体制を構築し、卓越した研究開発力に根ざした独自性ある製品を世界に供給する「世界で存在意義のある企業」となることを目標にしています。

参天製薬は、社名の由来でもある「天機に参与する」※という基本理念に基づき、目をはじめとする特定の専門分野に努力を傾注し、それにより参天製薬ならではの知恵と組織的能力を培い、患者さんと患者さんを愛する人々を中心として社会への貢献を果たしてまいります。

※「参天」は中国の古典「中庸」の一節に由来します。「天機に参与する」は、社名の「参天」を解釈したもので、自然の神秘を解明して人々の健康の増進に貢献するということを意味しています。

## 目次

株主の皆さまへ	1
財務ハイライト	3
第2四半期連結業績レポート	4
主要な医薬品開発状況一覧表	8
四半期連結財務諸表	9
取締役、監査役および執行役員	11
会社概要	12
株式の状況	13
株主メモ	14

### 見直しに関する注意事項

この中間報告書は、参天製薬の戦略・計画・業績などに関する将来の見直しを含んでいます。この見直しは、現在入手可能な情報をもとにした当社経営者の判断に基づいています。実際の業績は、事業環境の変化、新薬の承認時期、為替レートの変動、行政動向などさまざまな要素により、これら見直しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

## 株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。ここに、第98期の中間報告書をお届けにするにあたり、ごあいさつ申し上げます。



代表取締役会長

森田隆和

代表取締役社長 兼 CEO

黒川 明

当第2四半期までの国内医療用眼科薬市場は、緑内障治療剤、角膜疾患治療剤および網膜疾患治療剤などの伸長により、前年同期と比べ拡大しました。一方、海外医療用眼科薬市場は米国、欧州、アジアともに総じて堅調に推移しました。国内一般用眼科薬市場は目のかすみ、爽快、コンタクト、アレルギーならびに抗菌用目薬などが伸長し前年同期と比べ増加しました。

このような状況下、国内では医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動に注力したことや、アジア(中国)を中心とした海外事業が総じて堅調に推移し、売上高は前年同期と比べ13.2%増加し、591億2千3百万円となりました。なお、ライセンス契約に伴う収入も売上に寄与しています。営業利益は前年同期と比べ237.8%増加の190億3千6百万円、経常利益は前年同期と比べ213.8%増加の188億7千5百万円、当第2四半期純利益は前年同期と比べ213.4%増加し、116億7千7百万円となりました。

研究開発におきましては、グローバル戦略品である角膜疾患領域のDE-101は日本において後期第Ⅱ相試験を開始しました。また、角膜疾患とともに今後、成長が期待できる緑内障領域および網膜疾患領域においても、DE-104や昨年導入したDE-109等の開発

を確実に進めています。

中間配当金につきましては、1株あたり40円とさせていただきます。

また、当社は、2006年7月に、「世界の参天に向けた新薬候補の準備と、強みが発揮できる地域での成長」を基本方針とした5か年の中期経営計画(2006-2010年度)を発表しました。これは2006年度を起点とした10年後の2015年度に「世界の参天」を実現することを長期構想とし、2006年度から2010年度までをその第一ステップと位置付けるものです。

なお、2010年3月期は、策定当初に掲げた戦略・施策は概ね予定通り進捗しています。

中期経営計画ならびに長期構想の実現を通して、企業価値を持続的に拡大し、株主の皆さまの信頼に応えていく所存です。

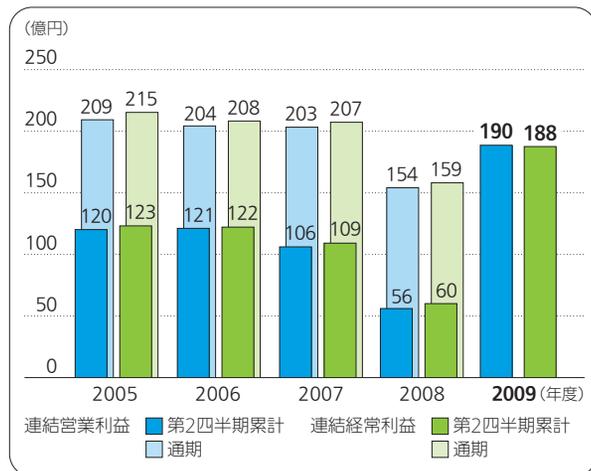
経営陣を代表して、皆さまの一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年11月

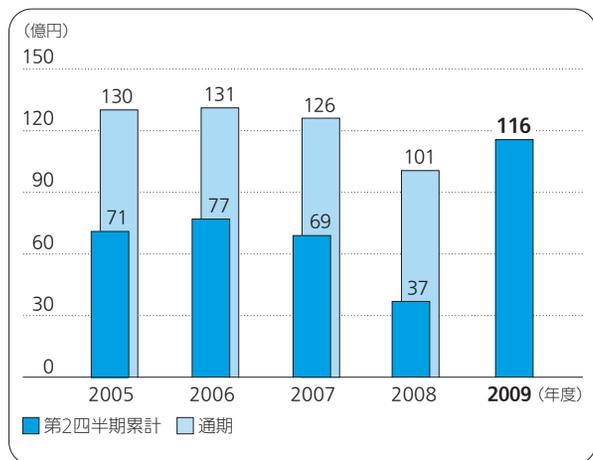
## 連結売上高



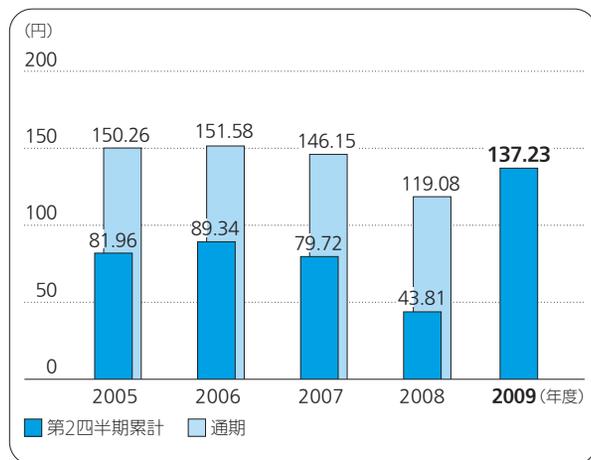
## 連結営業利益／連結経常利益



## 連結当期純利益



## 連結1株当たり当期純利益



## 当第2四半期までの概況

### 業績の状況(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

国内医療用眼科薬市場は、緑内障治療剤、角膜疾患治療剤および網膜疾患治療剤などの伸長により、前年同期と比べ拡大しました。一方、海外医療用眼科薬市場は米国、欧州、アジアとも総じて堅調に推移しました。国内一般用眼科薬

市場は目のかすみ、爽快、コンタクト、アレルギーならびに抗菌用目薬などが伸長し前年同期と比べ増加しました。

このような状況下、当第2四半期までの業績は次のとおりとなりました。

(単位:百万円)

	当第2四半期累計	前年同期	前年同期増減率
売上高	59,123	52,217	13.2%
営業利益	19,036	5,636	237.8%
経常利益	18,875	6,014	213.8%
四半期純利益	11,670	3,724	213.4%

### 売上の状況(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

販売部門別の売上高は、次のとおりとなりました。

(単位:百万円)

	国内		海外		合計	
	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率
医療用医薬品	42,488	1.9%	7,242	5.0%	49,730	2.3%
うち眼科薬	37,294	1.9%	7,175	4.7%	44,470	2.3%
うち抗リウマチ薬	5,038	1.5%	58	173.4%	5,097	2.2%
うちその他医薬品	154	17.6%	8	△57.7%	162	7.8%
一般用医薬品	2,776	2.2%	16	205.2%	2,792	2.6%
医療機器	436	92.0%	—	—	436	92.0%
その他	278	14.9%	5,884	—	6,163	832.9%
合計	45,980	2.4%	13,142	79.6%	59,123	13.2%

## 医療用医薬品

当第2四半期までの医療用医薬品の売上高は、前年同期と比べ2.3%増加し497億3千万円となりました。

### ▶眼科薬<国内>

医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動を引き続き実施しました。緑内障・高眼圧症の治療ニーズに合致した新製品「タブロス点眼液」は順調に市場浸透し、ドライアイ（眼球乾燥症候群）などに伴う角結膜上皮障害の治療剤「ヒアレイン点眼液」は患者さんや医療現場におけるドライアイの疾患啓発活動などにより順調な伸びを示しました。合成抗菌点眼剤領域では、市場環境の変化などにより、「クラビット点眼液」「タリビット点眼液」が減少、抗アレルギー点眼剤領域では、スギ花粉の飛散が前年と比べ早期に終息したことや競合の影響もあり、「リボスチン点眼液」が減少しました。その結果、国内医療用眼科薬の売上高は前年同期と比べ1.9%増加し372億9千4百万円となりました。



### ▶眼科薬<海外>

海外における医療用眼科薬の売上高は、円換算ベースで前年同期と比べ4.7%増加し、71億7千5百万円となりました。欧州では、医薬情報提供などの普及促進活動に注力した結果、ドイツにおいて新製品の緑内障・高眼圧症治療薬「タフロタン」が順調に市場浸透しました。アジアにおいても、普及促進活動の展開により当社製品の市場浸透が進みました。

### ▶抗リウマチ薬

抗リウマチ薬の売上高は、「リマチル錠」、「アザルフィジンE N錠」ならびに「メトレート錠2mg」が、主力の日本市場において、関節リウマチ治療ガイドラインで強く推奨される製剤に位置付けられていることもあり、前年同期と比べ2.2%増加の50億9千7百万円となりました。

## 一般用医薬品

一般用医薬品の売上高は、主力の日本市場において、目の疲れ・かすみ・爽快用の目薬の中で「サンテメディカル10」や新製品である「サンテ40i」および「サンテFX Vプラス」を中心に販売促進に注力した結果、前年同期と比べ2.6%増加の27億9千2百万円となりました。



## 医療機器

医療機器の売上高は、高屈折率のアクリル素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズ「エタニティー」の普及促進活動に注力した結果、前年同期と比べ92.0%増加の4億3千6百万円となりました。

## その他

ライセンス契約に基づく、一時金収入などにより、61億6千3百万円となりました。

## 利益の状況(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

売上原価は177億6千8百万円となりました。販売費及び一般管理費については223億1千8百万円となり、このうち研究開発費は69億2千2百万円となりました。この結果、営業利益は190億3千6百万円となりました。経常利益は188億7千5百万円となり、四半期純利益は116億7千万円となりました。

## 研究開発活動

参天製薬グループは、中長期的な成長の源泉として研究開発を重視しており、眼科薬を中心とした積極的な臨床開発活動を進めています。

緑内障・高眼圧症領域において、プロスタグランジン誘導体DE-085(一般名:タフルプロスト)は、平成20年12月より日本で販売中です。欧州では平成20年6月のドイツに始まり、現在、6カ国で自社販売しています。アジアにおいては、平成21年6月に韓国で販売承認を取得し、中国では第Ⅲ相試験を実施中です。また、平成21年4月には、メルク社とのライセンス契約締結により、西欧(ドイツを除く)、北米、南米、アフリカにおける販売権をメルク社に許諾し、平成21年9月よりイギリスおよびスペインで販売開始しています。米国での開発についてもメルク社が継続しています。緑内障および高眼圧症を適応症とするROCK阻害剤のDE-104(一般名:未定)は、米国および日本での前期第Ⅱ相試験の結果を踏まえ、より

強い眼圧下降効果を目指して用量を増加した臨床試験(第Ⅰ相/前期第Ⅱ相試験)を米国にて追加実施中です。

角結膜疾患(ドライアイを含む)領域において、主にドライアイに伴う角結膜上皮障害治療剤のうち、DE-089(一般名:ジクアホソルナトリウム)は、平成20年5月に日本での製造販売承認を申請し、現在、承認審査期間中です。また、DE-101(一般名:リボグリタゾン)は、米国および日本での前期第Ⅱ相試験結果を踏まえ、日本で後期第Ⅱ相試験を開始しました。また、遷延性角膜上皮欠損を適応症とするDE-105(一般名:未定)は、米国において第Ⅰ相試験を終了し、日本で前期第Ⅱ相試験を開始しました。

網膜領域において、糖尿病黄斑浮腫を適応症とするDE-102(一般名:未定)は、患者さんを対象とした忍容性および有効性確認試験(第Ⅰ相/前期第Ⅱ相試験)を日本で実施中です。

平成20年5月にマキュサイト社から日本を含むアジアでの眼科疾患を対象とした開発および販売実施権を取得したDE-109(一般名:シロリムス)は、滲出型加齢黄斑変性と糖尿病黄斑浮腫の患者さんを対象とした忍容性および有効性確認試験(第Ⅰ相/前期第Ⅱ相試験)を日本で実施中です。外眼部感染症を適応症とするDE-108(一般名:レボフロキサシン(1.5%))は、日本において第Ⅲ相試験を実施中です。

また、当社が株式会社Argenesに国内開発権を許諾している、関節リウマチを適応症とするDE-098(一般名:未定)は、患者さんを対象とした忍容性および有効性確認試験(臨床第Ⅰ相/第Ⅱ相試験)を欧州と日本で実施中です。

## 通期の見通し

平成21年8月4日に公表した平成22年3月期の業績予想と比較し、売上高は当第2四半期に計上されたライセンス契約に基づく一時金収入等により増加すると予想しています。利益についても、営業利益、経常利益および当期純利益とも

増加すると見込んでいます。

なお、平成21年8月4日に公表しました通期の連結業績予想との差異は以下のとおりです。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益	
	百万円	百万円	百万円	百万円	円	銭
前回発表予想(A)	111,000	25,500	25,500	16,000	188	21
今回修正予想(B)	113,500	29,000	29,000	18,000	211	61
増減額(B-A)	2,500	3,500	3,500	2,000	23	40
増減率(%)	2.3%	13.7%	13.7%	12.5%	—	—
前期実績	101,618	15,494	15,935	10,123	119	08

# 主要な医薬品開発状況一覧表

(平成21年11月現在)

一般名	開発コード	効能・効果	地域	フェーズ			申請	承認	発売	特長など
				I	II	III				
<b>緑内障領域</b>										
タフルプロスト	DE-085	緑内障・高眼圧症	日本 欧州 米国 アジア*	2008年12月 2008年6月 (導出) 2009年6月						プロスタグランジン系緑内障・高眼圧症治療剤。2008年12月、国内での販売開始。欧州では、ドイツ、デンマーク等で販売中。2009年4月米国の開発権をメルク社に許諾。韓国にて2009年6月販売承認取得。中国にてフェーズⅢ実施中。(※日本を除く)
塩酸ロメリジン	DE-090	緑内障	日本							視野欠損の進行抑制作用を有する新しい緑内障治療剤。カルシウム拮抗作用に基づく経口緑内障薬としては、唯一の開発薬剤。NMDA受容体拮抗剤と異なり、全身性の副作用が軽微であり、高い安全性を有する。シェリング・プラウ社により片頭痛治療剤として上市済。
未定	DE-104	緑内障・高眼圧症	米国 日本	(フェーズ I/IIa)						学部興産との共同研究で見出したROCK阻害活性を有する緑内障・高眼圧症治療剤で、既存の薬剤と異なる作用機序を持つ。線維柱帯細胞に直接作用し房水流出を促進すると考えられ、強力な眼圧下降作用を期待。
<b>角結膜疾患領域</b>										
ジクアホソルナトリウム	DE-089	角結膜上皮障害(ドライアイに伴う)	日本		2008年5月					角結膜上皮から涙液構成成分や水分の分泌を促す、主にドライアイに伴う角結膜上皮障害治療剤。既存薬との併用が可能。フェーズⅢ比較試験で所期の目的を達成でき、製造販売承認を申請。
リボグリタゾン	DE-101	角結膜上皮障害(ドライアイを含む)	米国 日本							主にドライアイに伴う角結膜上皮障害に対する改善効果を期待。現在発売および開発中の薬剤と異なる作用機序を有し、角結膜上皮細胞に直接働きかける点眼薬。
未定	DE-105	遷延性角膜炎上皮欠損	米国 日本							既存療法では難治性の遷延性角膜炎上皮欠損に対し、角膜炎上皮細胞進展促進作用により、角膜炎上皮欠損を修復する効果と、高い安全性を期待。
<b>網膜疾患領域</b>										
未定	DE-102	糖尿病黄斑浮腫	日本	(フェーズ I/IIa)						ドラッグデリバリーシステム概念を取り入れた、ステロイドマイクロスフェア製剤。研究段階では眼局所への投与で、長く安定した薬効持続性が確認できている。商業用スケールでの製造技術開発で米国オーウッド社と提携。
シロリムス	DE-109	滲出型加齢黄斑変性 糖尿病黄斑浮腫	日本	(フェーズ I/IIa)						免疫抑制作用、血管新生抑制作用などを有する結膜下注射および硝子体内注射剤。マキュサイト社が実施した滲出型加齢黄斑変性及び糖尿病黄斑浮腫患者を対象とした米国でのフェーズⅠ試験において、網膜の形態的改善を伴う視力改善を示す症例が認められている。日本を含むアジアでの眼科疾患を対象とした開発および販売実施権をマキュサイト社より取得。
<b>眼感染症領域</b>										
レボフロキサシン(1.5%)	DE-108	外眼部感染症	日本							ニューキノロン系抗菌薬。耐性制御を目的とした高濃度製剤。
<b>リウマチ領域</b>										
未定	DE-098	関節リウマチ	日本 欧州	(フェーズ I/II)						RA患者の罹病関節内でアポトーシスを誘導する関節注入剤。実生産規模での原薬製造法工程を確立。当社がセントコア社から導入した、抗APO-1抗体の国内開発権を株式会社Argenesに許諾。日本および欧州にて治験実施中。国内販売権および海外開発販売権は当社が保有。

フェーズⅠ(臨床第Ⅰ相試験):少数の健康人志願者を対象に安全性を確認する試験

フェーズⅡ(臨床第Ⅱ相試験):少数の患者さんを対象に投与量や投与方法を確認する試験

フェーズⅢ(臨床第Ⅲ相試験):多数の患者さんを対象に既存薬やプラセボ(偽薬)と比較して安全性・有効性を確認する試験

# 四半期連結財務諸表

## 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 平成21年9月30日現在	前期 平成21年3月31日現在	増減額
<b>〔資産の部〕</b>			
<b>流動資産</b>	<b>114,010</b>	<b>101,053</b>	<b>12,957</b>
現金及び預金	49,351	37,117	12,234
受取手形及び売掛金	37,229	36,011	1,218
有価証券	10,498	11,396	△ 898
たな卸資産	12,411	12,235	176
その他	4,520	4,292	228
<b>固定資産</b>	<b>50,509</b>	<b>49,959</b>	<b>550</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>27,976</b>	<b>28,664</b>	<b>△ 688</b>
建物及び構築物	15,430	15,864	△ 434
土地	8,667	8,678	△ 11
その他	3,878	4,122	△ 244
<b>無形固定資産</b>	<b>1,307</b>	<b>1,549</b>	<b>△ 242</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>21,225</b>	<b>19,744</b>	<b>1,481</b>
投資有価証券	13,926	11,818	2,108
その他	7,298	7,926	△ 628
<b>資産合計</b>	<b>164,520</b>	<b>151,012</b>	<b>13,508</b>

科目	当第2四半期 平成21年9月30日現在	前期 平成21年3月31日現在	増減額
<b>〔負債の部〕</b>			
<b>流動負債</b>	<b>25,322</b>	<b>22,439</b>	<b>2,883</b>
支払手形及び買掛金	5,193	6,018	△ 825
短期借入金	815	545	270
一年以内返済予定の 長期借入金	26	110	△ 84
未払金	7,293	7,414	△ 121
未払法人税等	7,413	4,163	3,250
その他	4,581	4,188	393
<b>固定負債</b>	<b>3,803</b>	<b>3,203</b>	<b>600</b>
退職給付引当金	2,711	2,393	318
その他	1,092	809	283
<b>負債合計</b>	<b>29,126</b>	<b>25,643</b>	<b>3,483</b>
<b>〔純資産の部〕</b>			
<b>株主資本</b>	<b>138,163</b>	<b>129,808</b>	<b>8,355</b>
資本金	6,502	6,457	45
資本剰余金	7,197	7,152	45
利益剰余金	129,403	121,133	8,270
自己株式	△ 4,940	△ 4,934	△ 6
<b>評価・換算差額等</b>	<b>△ 3,029</b>	<b>△ 4,628</b>	<b>1,599</b>
<b>新株予約権</b>	<b>260</b>	<b>188</b>	<b>72</b>
<b>純資産合計</b>	<b>135,393</b>	<b>125,368</b>	<b>10,025</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>164,520</b>	<b>151,012</b>	<b>13,508</b>

## 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期累計 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	前第2四半期累計 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	増減額
<b>売上高</b>	<b>59,123</b>	<b>52,217</b>	<b>6,906</b>
売上原価	17,768	18,423	△ 655
売上総利益	41,355	33,793	7,562
販売費及び一般管理費	22,318	28,157	△ 5,839
<b>営業利益</b>	<b>19,036</b>	<b>5,636</b>	<b>13,400</b>
営業外収益	447	782	△ 335
営業外費用	609	403	206
<b>経常利益</b>	<b>18,875</b>	<b>6,014</b>	<b>12,861</b>
特別利益	—	18	△ 18
特別損失	206	39	167
税金等調整前四半期純利益	18,668	5,994	12,674
法人税、住民税及び事業税	7,337	4,379	2,958
法人税等調整額	△ 340	△ 2,109	1,769
<b>四半期純利益</b>	<b>11,670</b>	<b>3,724</b>	<b>7,946</b>

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期累計 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	前第2四半期累計 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	増減額
<b>営業活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>16,013</b>	<b>5,294</b>	<b>10,719</b>
<b>投資活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>△ 1,252</b>	<b>△ 2,114</b>	<b>862</b>
<b>財務活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>△ 3,122</b>	<b>△ 8,423</b>	<b>5,301</b>
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△ 197	192	△ 389
<b>現金及び現金同等物の 増加額又は減少額</b>	<b>11,441</b>	<b>△ 5,051</b>	<b>16,492</b>
<b>現金及び現金同等物の 期首残高</b>	<b>45,956</b>	<b>51,669</b>	<b>△ 5,713</b>
<b>現金及び現金同等物の 四半期末残高</b>	<b>57,397</b>	<b>46,618</b>	<b>10,779</b>

## 取締役

### 森田 隆和

代表取締役会長

### 黒川 明

代表取締役社長 兼 CEO

### 三田 昌宏

常務取締役  
経営全般、薬制担当

### 西畑 利明

取締役 常務執行役員  
研究開発本部長

### 村松 勲

社外取締役(医療ビジネスコンサルタント)

### 古谷 昇

社外取締役(経営コンサルタント)

### 濱本 龍彦

社外取締役(他社社外監査役)

## 監査役

### 水本 幸儀

常勤監査役

### 加護野 忠男

社外監査役(大学教授)

### 佐藤 康夫

社外監査役(他社非常勤相談役)

### 宮内 英樹

社外監査役(他社社外取締役)

## 執行役員 (取締役による兼務を除く)

### 古門 貞利

常務執行役員 医薬事業部長

### 岩本 憲二

執行役員 アジア事業部長 兼 中国事業統括室長

### 佐藤 正道

執行役員 企画本部長 兼 海外関連会社室長

### エイドリアン・グレイブス

執行役員 サンテン・インク取締役社長

### ユルキ・リリエロース

執行役員 サンテン・オイ取締役社長

### 森島 健司

執行役員 生産物流本部長

### 納塚 善宏

執行役員 社会・環境担当

### 原田 哲

執行役員 管理本部長  
兼 コーポレート・コミュニケーショングループマネージャー

<b>社名</b>	参天製薬株式会社	<b>創業</b>	1890年
<b>本社</b>	〒533-8651 大阪市東淀川区下新庄三丁目9番19号 TEL:06-6321-7000(代表) 06-6321-7007(IR専用) FAX:06-6321-8400	<b>設立</b>	1925年
		<b>資本金</b>	6,502百万円
		<b>工場</b>	能登、滋賀、大阪
		<b>研究所</b>	奈良研究開発センター
		<b>従業員数</b>	2,727名(単体1,920名)

## 主要子会社

### ① サンテン・ホールディングス・ユーエス・インク

事業内容:北米事業の持株会社、事業開発

出資比率:100%

設立年月:2002年1月

### ② サンテン・インク

事業内容:医薬品の臨床開発

出資比率:100%

設立年月:1993年3月

(注)サンテン・ホールディングス・ユーエス・インクを通じた間接出資

### ③ サンテン・オイ

事業内容:医薬品の臨床開発・製造・販売・受託製造

出資比率:100%

設立年月:1997年2月

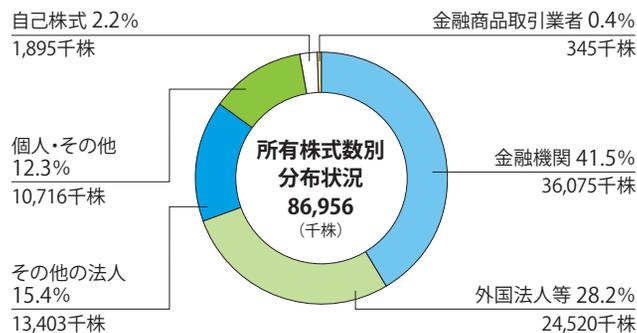
### ④ 参天製薬(中国)有限公司

事業内容:医薬品の臨床開発・製造・販売

出資比率:100%

設立年月:2005年9月

発行可能株式総数	220,000,000株
発行済株式総数	86,956,203株
単元株式数	100株
株主数	10,004名



## 大株主の状況 (上位10社)

株主名	所有株式数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	12,928	14.9
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	6,456	7.4
三田産業株式会社	4,756	5.5
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,241	4.9
日本生命保険相互会社	3,008	3.5
東京海上日動火災保険株式会社	2,668	3.1
資産管理サービス信託銀行株式会社	2,286	2.6
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505223	1,859	2.1
アールービーシー デクシア インベスター サービスーズ トラスト, ロンドン レンディング アカウント	1,793	2.1
第一三共株式会社	1,642	1.9

(注)自己株式1,895千株(出資比率2.2%)を保有していますが、上記の大株主から除いています。

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
単元株式数	100株
公告方法	電子公告 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告掲載URL: <a href="http://www.santen.co.jp/jp/pn">http://www.santen.co.jp/jp/pn</a>
証券コード	4536
上場証券取引所	東京証券取引所、大阪証券取引所
株主名簿管理人および 特別口座の管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL:0120-094-777
株式に関する お手続き等について	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)にお問い合わせください。</li><li>2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行の本支店でもお取次ぎいたします。</li><li>3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いいたします。</li></ol>

〈お問い合わせ先〉

## 参天製薬株式会社

コーポレート・コミュニケーショングループ

〒533-8651 大阪市東淀川区下新庄三丁目9番19号

TEL: 06-6321-7007 FAX: 06-6321-8400

Email: [ir@santen.co.jp](mailto:ir@santen.co.jp) URL: <http://www.santen.co.jp>

※ ホームページに最新の情報を掲載しております。ぜひご覧ください。



この冊子は地球環境保護のため、大豆油インキで印刷しています。

- ※ この冊子は、高齢の方にも見やすい文字(UDフォント)を使用しています。
- ※ この冊子は、色覚障害の方にも情報が伝わるよう、シミュレーションによって確認をしています。